

教員Bによる筋道

1. 批判について、どのように考えるのか述べる
→「～という考え方があるが、～～ように考える」
2. その理由を述べる。
→「なぜなら～だからである」
3. 他方の主張を飲む。
→「たしかに～という考え方もある」
3. 1. その主張を押しつける理由を述べる
→「x xだが、この考え方で考えるべきである」
4. 結論を述べる
→「以上のことから～であると考える」

1.
やさしい日本語に対する批判的な意見があるが、この「正しい日本語とは何か」を定めようとする**規範主義**的な考え方を持つことには反対である。

2.
なぜなら、この考えでは現在の在留外国人との共存はできないからである。少子高齢社会において外国人材は必須となり、彼らが日本社会に溶け込む「必要性」が生じている。日本社会で生活する上で最初の取っ掛かりや、他言語に注意して対応し、共生社会を築きあげていくことは大切なことである。

3.
たしかに全てをやさしい日本語に変換すると冗長な言語になったり、さらなる誤解が生まれる可能性も否定できない。また、外国人日本語話者には初級話者から上級・超級話者まで存在するため、一律にやさしい日本語で対応をしないとしなければいけないと考えること自体が間違っているといえよう。

3. 1.
しかしながら情報弱者である在留外国人の権利を守るためと考えればやさしい日本語は必須だと考えられる。

4.
このことから規範主義の批判を受けていても、多くの日本人にやさしい日本語が使えるよう奨めるべきである。